

新時代に対応した高校授業改革推進事業
(指導・評価研究部門)
研究実践報告 国語

宮崎県立高城高等学校
柚木崎あす美

目次

1 ICTの活用

1.1 実施した授業例

～一斉表示、一人一台端末、オンライン授業～

1.2 個別最適化の観点から

2 指導と評価の一体化

2.1 観点別評価

2.2 ルーブリック評価

2.3 主体的に取り組む態度

1 ICTの活用

1.1 実施した授業例 ～一斉表示～

使用機器：iPad、プロジェクター、大型モニター

- プリントを写真に撮って表示
- Good Notes 5
- Youtube

19:25 1月18日(水) 論理的な表現

四面楚歌 x 初冠 x 平家物語 x 「間」の感覚 x 文章検定4級手... x 言葉の海のオノ... x 論理的な表現

2 次の(1)~(4)の文章の主張は①と②のどちらか、番号で答えなさい。

(1)①この廊下は見通しが悪く、接触事故がよく起きている。②早く対策を考えたほうがよい。
理由 ← だから

②①朝の5分間を使ってでも、新聞に目を通す習慣をつけたい。②新聞を読めば、知識や情報を増やせるだけでなく、読む力も身につくというデータがある。
なぜなら

(3)①明日の朝はいつもより1時間も早く起きなければいけない。②なるべく早く寝るべきだな。
だから

②①水泳教室に通いたい。②私はまだ5メートルも泳げない。
なぜなら

3 次の文章中の空欄①②に入る言葉を選択肢から選び、記号で答えなさい。

お花を入れた花瓶の水は毎日換えます。[①]、水を換えないと花瓶の中で雑菌が増えて茎が傷み、水の通りが悪くなるからです。また、茎の切り口が新しいと水の通りがよくなります。[②]、水を換えるときに茎を切るとなおよいでしょう。

ア. だから イ. なぜなら ウ. しかし

Good Notesを用いたプリントの表示

1 ICTの活用

1.1 実施した授業例

- クラスルーム
解いた問題集を写真に撮って送信、添削して返却
- Meet
教員の画面をひとりひとりの端末に表示
- スライド
個人発表
(プレゼンテーション)

～一人一台端末～

- フォーム
相互評価、小テスト
- スプレッドシート
班活動結果を書き込んで報告
- ドキュメント 音声入力
古文の音読
- PDF編集
PDFデータで配布したプリントに端末上で書き込み

1 ICTの活用

1.1 実施した授業例 ～オンライン授業～

- Meetで画面共有
- 問題を解く
 - 答えをフォームで送信
 - 教員が正答率を把握して解説
- 質問はMeetのチャット機能を使用

1 ICTの活用

1.2 個別最適化の観点から

メリット

- ・ できることが増えた
- ・ 視覚支援
画面共有により、手元に黒板がある状態
小さい文字も映せる→長文読解の解説◎
- ・ 紙か端末か、生徒が好きな方を選べる
- ・ 提出機能の活用
生徒の進捗状況や理解度がその場で把握できる

1 ICTの活用

1.2 個別最適化の観点から

デメリット

- ・わかりやすく提示する→思考の機会を奪っていないか？
- ・見るものが増えたことで、どこを見ればいいのか分からない

課題

- ・縦書きへの対応
- ・タブレットを持ってこない、充電してこない生徒への手立て

2 指導と評価の一体化

2.1 観点別評価 中間報告からの変化

1学期

評価	5	4	3	2	1
相対度数分布%	57	27	11	1	4

適切な評価ができていますか？

↓ 評価規準、評価材料の見直し

2学期

評価	5	4	3	2	1
相対度数分布%	42	26	31	0	1

2 指導と評価の一体化

2.1 観点別評価

成果

- ・ 指導目標が明確化
- ・ 育てたい資質能力を意識した授業の実施

課題

- ・ 授業中の活動を評価する際、事前に十分な指導が必要
例) 同じ課題を二回提出させる
→ 授業でできる学習活動の種類、量が減る
- ・ 評価計画がネックになり活動をやめてしまう
- ・ 計画～評価の煩雑さ 持続可能か？
- ・ 全職員に浸透するのか？

2 指導と評価の一体化

2.2 ルーブリック評価

課題

- ・ ABCの基準を決めても曖昧な点や想定していない解答があり、教員間で差が生じる
- ・ B評価のなかにもAに近い場合とCに近い場合があるが、それらを同じ評価にすることは妥当か？

⇒点数（部分点や減点方式）評価のほうが相応しいものも多く、課題によって評価方法を吟味する必要がある

2 指導と評価の一体化

2.3 主体的に取り組む態度

「提出すれば○」ではない評価

日々課題の在り方を見直し

→課題の内容を小テストで問う

課題

- ・ 課題の意味付け 見直しの結果廃止されるものが多い？
⇔学習習慣を身につけさせたい学校方針との相反
- ・ 見て写すのが精一杯の生徒への指導

おわりに

ICTの利用

トライ&エラーでできることが増えていく
活用アイデアの共有

指導と評価の一体化

教員が疲弊しない手立て
学習が苦手な生徒への対応